

地方独立行政法人神奈川県立産業技術総合研究所
令和元年度 業務実績評価書

令和2年9月
神奈川県

地方独立行政法人法第 28 条に基づき、次のとおり地方独立行政法人神奈川県立産業技術総合研究所（以下「産技総研」という。）の令和元年度の業務実績に関する評価を実施した。

1 年度評価の基本的方針

業務実績に関する評価は、「地方独立行政法人神奈川県立産業技術総合研究所の各事業年度の業務の実績に関する評価の実施基準」（平成 30 年 4 月 1 日制定）に基づき、次のとおり行う。

(1) 基本方針

- ア 中期目標の達成に向けて、産技総研の中期計画の事業の進捗状況を評定する。
- イ 県民への説明責任の観点から、評価を通じて、中期目標の達成状況や業務の実施状況を分かりやすく示す。
- ウ 産技総研の組織・業務運営等に関して改善すべき点を明らかにすることにより、法人運営の質的向上に資する。

(2) 評価方法

ア 業務実績の検証

年度評価を実施するに当たっては、産技総研から提出された業務実績報告書等を基に、産技総研からのヒアリングを実施するなど調査・分析のうえ、業務の実績の全体について検証を行う。

業務実績の検証は、年度計画に記載されている各項目の事業の進捗状況及び成果等について、できる限り客観的なデータにより適正に行う。

イ 項目別評価（小項目評価）

項目（小項目）ごとに、産技総研の自己評価及び年度計画の目標設定の妥当性などを総合的に検証し、産技総研の自己評価と同じ 5 段階の区分により評価する。

産技総研の自己評価と異なる評価を行う場合は、評価の判断理由等を示すとともに、必要に応じて、特筆すべき点や改善すべき点等があればコメントを付す。

ウ 項目別評価（大項目評価）

項目（大項目）ごとに、業務実績報告書及び小項目評価の結果を基に、業務実績の検証を踏まえ総合的に判断し、5 段階の区分により評価する。

なお、「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」に関する評価に当たっては、産技総研が重点的に取り組むべきものとして「新技術や新製品の開発を促進する研究開発」「県内企業が直面する技術的課題を解決する技術支援」「県内企業による製品開発や商品化を促進する事業化支援」を重視するものとする。

エ 全体評価

業務実績の検証や項目別評価の結果を踏まえ、産技総研の中期計画の進捗状況全体について総合的に判断し、記述式で評価をする。

なお、全体評価に当たっては、県内産業の発展及び県民生活の向上に資することを目的とする産技総研の設立趣旨を踏まえ、「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」を重視することとする。

また、必要があるときは、産技総研に対して業務運営の改善その他の必要な措置を講ずることを命ずることができる。

(3) 評価委員会の意見聴取

専門的知見に基づく適切な評価を実施するため、神奈川県地方独立行政法人評価委員会条例第 3 条第 2 号の規定に基づき、神奈川県地方独立行政法人神奈川県立産業技術総合研究所評価委員会からの意見を聴取する。

2 全体評価

《評価結果》

令和元年度は、中期計画の達成に当たり引き続き順調な進捗状況にある。

《評価理由》

地方独立行政法人化して3年目を迎えた令和元年度については、組織の管理運営及び事業の実施において、統合による成果が表れてきている状況である。人事評価制度による計画的な職員の能力向上、職員年齢構成の改善に向けた積極的な新規採用の実施、組織運営における規程の整備等、着実に組織管理体制が構築されている。また、顧客ニーズを踏まえた情報の発信、サービスの改善も継続して進められており、収支管理においても、各部門が自発的に収益向上に向けた改善を行っている。また、年度計画に定める産技総研の5つの事業の柱である「研究開発」「技術支援」「事業化支援」「人材育成」「連携交流」についても、利用者に対するサービス向上を目指した事業運営が継続的に行われており、新規顧客の獲得や高い満足度に結び付いている。その結果、各事業で着実な成果に結び付いている。

こうしたことから、4つの大項目のうち、全体評価にあたり重視する「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」についてS評価、「業務運営の改善及び効率化」を含む3項目をA評価としており、令和元年度の全体評価は、中期計画の達成に当たり昨年度に引き続き順調な進捗状況にあるものとした。

(大項目評価結果)

住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上	S 特筆すべき進捗状況にある	A 順調な進捗状況にある	B 概ね順調な進捗状況にある	C 進捗がやや遅れている	D 進捗が著しく遅れており、重大な改善事項がある
業務運営の改善及び効率化	S 特筆すべき進捗状況にある	A 順調な進捗状況にある	B 概ね順調な進捗状況にある	C 進捗がやや遅れている	D 進捗が著しく遅れており、重大な改善事項がある
財務内容の改善	S 特筆すべき進捗状況にある	A 順調な進捗状況にある	B 概ね順調な進捗状況にある	C 進捗がやや遅れている	D 進捗が著しく遅れており、重大な改善事項がある
その他業務運営に関する重要事項	S 特筆すべき進捗状況にある	A 順調な進捗状況にある	B 概ね順調な進捗状況にある	C 進捗がやや遅れている	D 進捗が著しく遅れており、重大な改善事項がある

3 項目別評価（大項目評価）

3-1 「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」に関する評価

《評価結果》

令和元年度の評価結果は、S評価とする。

S：中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。

A：中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。

B：中期計画の達成に向けて概ね順調な進捗状況にある。

C：中期計画の達成のためには進捗がやや遅れている。

D：中期計画の達成のためには進捗が著しく遅れており、重大な改善事項がある。

《評価理由》

年度計画に設定した14の数値目標のうち、12の項目で目標を達成した。特に、新たな評価メニューの開発に着実に取り組み、数値目標の水準を大幅に上回る実績をあげている。また、抗菌・抗ウイルス性能評価については、新型コロナウイルス感染症に関連した試験評価需要の増加により、受託件数及び収入の増につながっている。このような社会の新たなニーズに対応した取組により、高い実績を実現している。

また、数値目標を設定していない事項についても、年度計画に基づき着実に取り組み、成果を挙げたものと認められる。

こうしたことから、産技総研の5つの事業の柱のうち、評価に当たって重視するとしている「研究開発」「技術支援」「事業化支援」に対応する9の小項目、「人材育成」「連携交流」に対応する6の小項目の計15項目全てについて、S評価5つを含むA以上の評価を獲得した。

以上、総合的には中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にあると判断したことから、S評価とした。

(小項目評価結果)

	S	A	B	C	D
	年度計画を大幅に上回って達成している	年度計画を達成している	年度計画を概ね達成している	年度計画を下回っており改善の余地がある	年度計画を大幅に下回っており大幅な改善が必要である
1 新技術や新製品の開発を促進する研究開発 (小項目1)★	1				
2 県内企業が直面する技術的課題を解決する技術支援 (小項目2-5)★	3	1			
3 県内企業による製品開発や商品化を促進する事業化支援 (小項目6-9)★		4			
4 県内企業の技術力の底上げなどを図る人材育成 (小項目10-11)	1	1			
5 技術面を中心とした大学、研究機関、県内企業等の連携交流 (小項目12-15)		4			

★＝大項目評価にあたり重視する項目

(年度計画を大幅に上回って達成している項目 (S評価))

【小項目1】研究開発

年度計画に定める業務を着実に実施し、数値目標4項目全てにおいてS評価を達成した。

特にプロジェクト研究では、各プロジェクトが積極的に研究活動に取り組み、その結果、学会発表、論文掲載、特許出願、共同研究ともに、数値目標の水準を大幅に上回る実績につながっている。

【小項目 3】試験計測

新規顧客の開拓とリピーターの獲得のため、顧客ニーズを踏まえたサービスの改善、支援メニューの情報提供に積極的に取り組み、数値目標の水準を大幅に上回る実績をあげている。

【小項目 4】技術開発

学会発表等を通じ、産技総研の保有する技術を外部に積極的に発信することで、利用企業からの受託獲得に取り組み、数値目標の水準を大幅に上回る実績をあげている。

【小項目 5】評価法開発

新たな評価メニューの開発に着実に取り組み、数値目標の水準を大幅に上回る実績をあげている。また、抗菌・抗ウイルス性能評価については、新型コロナウイルス感染症に関連した試験評価需要の増加により、受託件数及び収入の増につながっている。このような社会の新たなニーズに対応した取組により、高い実績を実現している。

【小項目 11】科学技術理解増進

近隣地域の学校に対する事業周知や情報発信、各校の要望を踏まえた実験・実演メニューの工夫に取り組み、数値目標の水準を大幅に上回る実績をあげている。

(評価委員会からの意見、指摘等)

- ・ 事業化支援は件数に対する年度目標を達成しており、また、2件については商品化されたという点では評価できる。しかし、財務的な面で、予算で収支がマイナスになる予算を作成しており、決算では 21 百万円収支のマイナスを改善しているが、20 百万円のマイナスとなっている。事業の継続性を考えれば、事業者から利用料等を取る（値上げする？）等により収支が均衡するように事業収入を増やす必要があると思う。
- ・ 事業化支援 IoT 導入支援件数について、単年度達成率は 100%であり、中期計画の観点でも大幅に上回る達成とは言えないため、評価は A が適切ではないかと考える。
- ・ 研究開発について、目標に対して上回る成果が得られているものが多かった。未達は新型コロナの影響を受けたものが多いように見受けられた。十分な成果が得られていると評価できる。今年度は、with コロナを前提に対処してほしい。おそらく、今回影響を受けた顧客との面談部分については、メール・電話だけでなくビデオ会議で強化していくことが望まれる。

3-2 「業務運営の改善及び効率化」に関する評価

《評価結果》

令和元年度の評価結果は、A評価とする。

S：中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。

A：中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。

B：中期計画の達成に向けて概ね順調な進捗状況にある。

C：中期計画の達成のためには進捗がやや遅れている。

D：中期計画の達成のためには進捗が著しく遅れており、重大な改善事項がある。

《評価理由》

組織運営について、次期中期計画の策定を目的とした第Ⅱ期中期計画検討タスクフォースの立ち上げや化学技術部におけるグループ新設など、状況に応じた柔軟な組織運営に取り組んでいる。また、企画部門への情報の集約化にも取り組み、年度計画に記載された事項を計画どおり実施している。

また、人事制度の運用について、職員の能力向上に向けて、人事評価制度の定着と職員研修に取り組んでいる。また、職員採用についても、採用活動を進め、職員年齢構成の改善に取り組んでおり、年度計画に記載された事項を計画どおり実施している。

業務運営について、リスクへの適切な対応を可能とする関係規程の見直しについて、着実に取り組んでいる。また、情報システムの運用業務の効率化に向けて、メールサーバのクラウド化や無線LANの整備にも取り組んでおり、年度計画に記載された事項を計画どおり実施している。

こうしたことから、3つの小項目について、全てA評価とした。

以上、総合的には中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にあると判断したことから、A評価とした。

(小項目評価結果)

	S	A	B	C	D
	年度計画を大幅に上回って達成している	年度計画を達成している	年度計画を概ね達成している	年度計画を下回っており改善の余地がある	年度計画を大幅に下回っており大幅な改善が必要である
(小項目 16~18)		3			

(年度計画を大幅に上回って達成している項目 (S評価))

該当無し

(評価委員会からの意見、指摘等)

- ・ 人材育成については、感染症拡大防止の観点から対面での開催に制約が生じると考えられることから、開催方法など対応について検討を進めることを期待する。
- ・ 研究や事業支援の成果を上げ続けるためにも、人材確保や広報は引き続き課題の一つのように思う。

3-3 「財務内容の改善」に関する評価

《評価結果》

令和元年度の評価結果は、A評価とする。

S：中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。

A：中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。

B：中期計画の達成に向けて概ね順調な進捗状況にある。

C：中期計画の達成のためには進捗がやや遅れている。

D：中期計画の達成のためには進捗が著しく遅れており、重大な改善事項がある。

《評価理由》

収入の確保について、部別収支を踏まえた設備投資による収入の確保、多岐に渡る外部資金への申請による競争的資金の獲得に取り組んでおり、年度計画に記載された事項を計画どおり実施している。

財務運営の効率化について、事業セグメントごとの財務状況を把握できる体制を整え、適切な執行管理、財務運営の効率化に取り組んでおり、年度計画に記載された事項を計画どおり実施している。

こうしたことから、2つの小項目についてA評価とした。

以上、総合的には中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にあると判断したことから、A評価とした。

(小項目評価結果)

	S	A	B	C	D
	年度計画を大幅に上回って達成している	年度計画を達成している	年度計画を概ね達成している	年度計画を下回っており改善の余地がある	年度計画を大幅に下回っており大幅な改善が必要である
(小項目 19~20)		2			

(年度計画を大幅に上回って達成している項目 (S評価))

該当無し

(評価委員会からの意見、指摘等)

・特になし

3-4 「その他業務運営に関する重要事項」に関する評価

《評価結果》

令和元年度の評価結果は、A評価とする。

S：中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。

A：中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。

B：中期計画の達成に向けて概ね順調な進捗状況にある。

C：中期計画の達成のためには進捗がやや遅れている。

D：中期計画の達成のためには進捗が著しく遅れており、重大な改善事項がある。

《評価理由》

社会的責任について、法人の適切な管理運営に取り組んでいる。

施設等の有効活用について、施設の適切な維持管理に努め、機器の導入及び更新に取り組んでいる。広報の強化について、イベントやホームページ、広報誌等を活用した広報活動に取り組む、年度計画に記載された事項を計画どおり実施している。

こうしたことから、3つの小項目について、A評価とする。

以上、総合的には中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にあると判断したことから、A評価とした。

(小項目評価結果)

	S	A	B	C	D
	年度計画を大幅に上回って達成している	年度計画を達成している	年度計画を概ね達成している	年度計画を下回っており改善の余地がある	年度計画を大幅に下回っており大幅な改善が必要である
(小項目 21~23)		3			

(年度計画を大幅に上回って達成している項目 (S評価))

該当無し

(評価委員会からの意見、指摘等)

・ 特になし